

「畜産業への挑戦！」



宇高 亮平 (30歳)
(四国中央市)

新規参入

1 就農の動機・理由

以前は四国中央市で有名な喫茶店に勤めていましたが、平成29年10月に2人目の子供が生まれるにあたり、今まで以上に家族と過ごす時間を増やしたいと思い、義父が行っていた畜産(繁殖牛)経営を引き継ぐことを決め、約半年間の準備期間を経て、平成30年1月に義父の経営を引き継ぎ就農した。

○主要農業機械

バックホー	1台
トラクター	1台
田植え機	1台
コンバイン	1台
管理機	1台
2t ダンプカー	1台
軽トラック	1台

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (平成30年)	現在の経営 (令和3年)	将来の経営 (令和5年)
労働力	男2人(本人、義父)	男2人(本人、義父)	男2人(本人、義父) 女1人(妻)
経営耕地	水田 126 a 牛舎 1棟	水田 126 a 牛舎 1棟	水田 126 a 牛舎 1棟
経営内容	繁殖母牛 14頭 (内あかね和牛繁殖母牛2頭) 水稲 56 a サトイモ 20 a 飼料作物 10 a 地力増進作物 40 a	繁殖母牛 15頭 (内あかね和牛繁殖母牛4頭) 水稲 56 a サトイモ 20 a 飼料作物 10 a 地力増進作物 40 a	繁殖母牛 20頭 (内あかね和牛繁殖母牛6頭) 水稲 56 a サトイモ 20 a 飼料作物 10 a 地力増進作物 40 a

○農業用施設

牛舎	1棟	640 m ²
堆肥舎	1棟	100 m ²
倉庫	1棟	35 m ²

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 大阪府箕面市

職歴 民間企業

就農年月 平成30年1月

(2) 就農時の思い

畜産(繁殖牛)経営は初めてのことばかりで苦勞の連続ですが、子牛が無事に生まれた時の達成感と感動は言葉では言い表せないものがあり、畜産(繁殖牛)経営にやりがいを感じている。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

近隣に繁殖牛農家は少なく、また獣医師も少ないため、牛の発情に合わせた適切なタイミングで種付けをするため、就農1年目に義父や獣医師らの勧めもあり、人工授精師免許を取得した。

免許取得のため、西予市野村町にある県畜産研究センターで、約1ヶ月半泊まり込みで講座を受講し、そこで県内の畜産農家や県外の大規模な繁殖牛農家の後継者とも知り合い、農家間のつながりが広がったことがよかった。

また、四国中央市青年農業者連絡協議会の研修や組織活動、相互の情報交換等により、技術を向上できた。

(2) 資金の準備

牛舎、堆肥舎、倉庫、トラクター、田植え機等は義父等から無償で借り受けたため、就農時に資金は必要なかった。

(3) 農地・住宅の確保

義父所有の農地及び義父が貸借していた農地の一部を借り受けて経営を開始した。

住宅は義父と同居している。

5 農業経営の特徴

一般的な素牛生産に加え、県ブランド牛「あかね和牛」の素牛生産を行っている。また、四国中央市特産のサトイモの栽培も行っている。

6 これからの夢

今後は、繁殖母牛を 20 頭まで増やし、県ブランド牛「あかね和牛」の素牛生産も拡大したい。

7 成功したキーポイント

義父の経営基盤があったので就農時に問題となることはなかった。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業を行うためには、様々な面で地域との関係が出てくるため、できるだけ、地域の人と交流することに心がけてください。

また、地域活動等を通じて地域の人や J A、関係機関との人脈を作ることも大切です。

○ 指導機関からのひとこと

宇高さんは、農業経営者としての意識が高く、真剣に農業に取り組む姿勢は地域の農家から信頼も得ています。

また、青年農業者組織の若手として活動に参加しており、仲間づくりや自己啓発に意欲的です。

今後は青年農業者組織や地域農業を支えるリーダーとして成長されることを期待しています。

執筆機関

東予地方局産業振興課地域農業育成室
四国中央農業指導班

電話番号 0896-23-2394



県畜産研究センターでの研修



自ら人工授精して生まれた子牛